

- ・地形図 2万5千分の1 飛騨青屋
- ・問い合わせ 木下まで 090 4863 5158
k.kinoshita@hop.ocn.ne.jp

担当；木下 喜代男

■乗鞍岳の沢について

わが母なる山「くらがね」=乗鞍岳は、とても大きくそして広い。

私たちはこの山を知ったつもりでいるが、それはせいぜいスカイライン沿いか、畳平周辺のピーク、そして肩の小屋からの剣ヶ峰あたりだけであろう。この山の全容を知ることにはなかなか難しいが、それは今なおそれだけ未知の部分を残している魅力的な山、ということだ。

乗鞍岳には、飛騨側だけでもおよそ12本の谷が落ちている。このうち北西面の久手御越谷、池之俣川、沢ノ上谷川は五色ヶ原のガイドツアーエリアで入れないので、近年西面、南面の谷（岳谷、濁川、阿多野郷川の東谷、真谷、塩沢谷、徳河谷、九蔵谷、長倉本谷など）を遡って見みた。

どの谷も美しい大きい滝がいくつもあって原始のままの自然が残っておりまさに「深山幽谷」。その遡行は、登山の原点である「未知へのあこがれ」を十分満たしてくれた。

■九蔵本谷・小俣谷・九蔵川=美しい滝が多い変化に富んだ谷

九蔵本谷は、標高2300mの秘境千町ヶ原を源として真西へ流れ落ち、途中で小俣谷と合流して九蔵川となり、青屋で二又川と合流する約10kmの滝が多い変化に富んだ谷。最下部に集落が少しあるだけなので、乗鞍がもたらしてくれる清冽な水の中で遊ぶことができる。この谷は朝日町の中心部から近いため、私が今までに一番多く入っている谷だ。

今回は二又川分岐から入渓し、九蔵川の下部のやさしい部分2kmくらいを遡行します。ぜひご参加ください。夏は涼しい沢登りに限ります。

2 夏季山行北アルプス 木曾川源流（鉢盛山）の一滴を求めて

8月26日（土） 雨天の場合は翌27日（日）に順延

体力；★ 技術；★ 危険；★

鉢盛山（2446.4m）は、木曾川源流の山で、一等三角点があり、展望360度（北・南・中央アルプス・八ヶ岳）抜群です。

登山口までの鉢盛山林道のカギを借り受けますので、初心者でも比較的容易に登れます。
集合場所；岐阜県庁